

七福神巡り2025

開催日:2025年1月4日
会場:東京・品川周辺

情報文化研究委員会

「七福神巡り」はaaca恒例の年頭企画の一つで、場所を変えながら18年間続いています。日頃顔を合わせる機会の少ない会員も年初に集まり、参詣し、今年のご多幸を祈願し、会話を交わしながら街歩きをするユニークな催しです。今年の「東海七福神巡り」は寒風の中、8名が参加。京急線の大森海岸駅から品川駅まで、旧東海道にある長い歴史を持つ由緒ある社寺が集まった地域を巡りました。これまでに比べコース巡りの所要時間が少ないこと、旧東海道に沿って七福神が祀られているため道順が分かりやすいことが特徴でした。また周辺の街並みからはその界隈の歴史や生活の匂い、人々の息づかいが伝わり、好奇心が呼び起こされました。

品川は江戸時代に定められた東海道五十三次の最初の宿場。現在も、当時の宿場の情景や旅人の賑わいの面影が偲ばれます。今回巡った先はそれぞれに興味を惹かれる点がありましたが、特に毘沙門天を祀る品川寺(ほんせんじ)では、住職の計らいで寺の梵鐘にまつわる貴

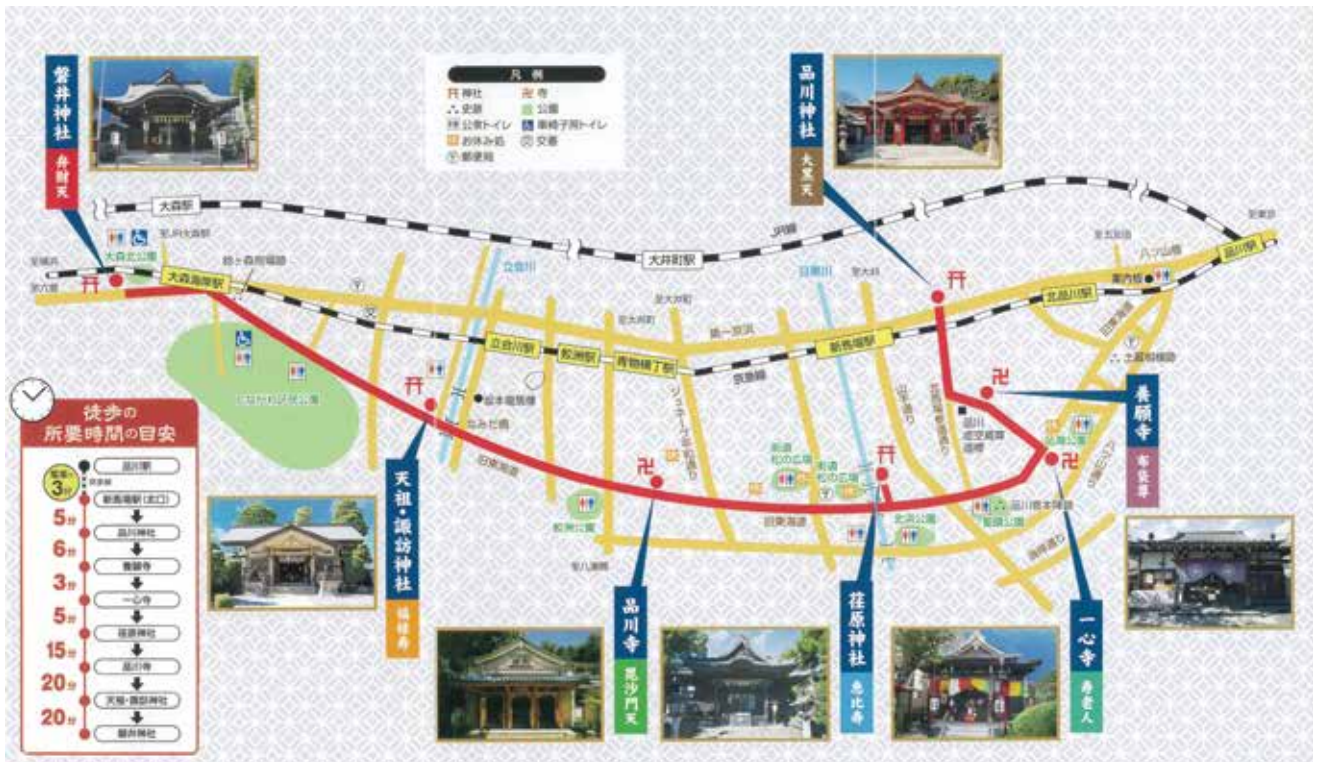
重な逸話を聞くことができ、強く印象に残りました。

この梵鐘は1657年に京都で大西五郎左衛門により铸造され、品川寺に名鐘として納められました。その後梵鐘は海外に流出し長い間所在が不明でしたが、1867年パリ万国博覧会と1873年ウィーン万国博覧会に出陳されたことと伝えられたことから、住職や関係者の尽力と熱意で梵鐘の行方を追跡。その結果、スイス・ジュネーブ市にあるアリアナ美術館で保管されていることが1919年に判明しました。返還交渉努力の結果、1930年、梵鐘は寺に贈還され、国宝に指定されました。1990年には贈還60年を記念し、返礼としてアリアナ美術館に梵鐘のレプリカが贈呈され、翌年にはジュネーブ市と品川区の友好都市の締結が実現しました。その後も両市の交流は深まり、交換留学の実施、文化の交流に発展し、品川寺の梵鐘を中心に人々に友好の輪が広がっていきました。現在、品川寺からはほど近い場所に「ジュネーブ平和通り」が設けられ、友好都市提携の記念でジュネー

ブ市から贈られた「平和の道」と名付けられた標識が、多くの行き交う人々を見守っています。(委員 中島三枝子)



品川寺梵鐘 スケッチ:飯田比佐夫



東海七福神 おめぐり図